

彦名通信

No. 170
平成24年10月



卓球部：祝！ 女子ダブルス全国優勝！



放送部：県内初、NHK全国準優勝！



合唱部：創部初、NHK県予選金賞受賞！

CONTENTS

目次

イベント特集	
学生主事より	2
主な成績一覧	2
クラブ別報告	3・4・5
オープンキャンパス	6・7
クラス便り	
4年学年主任より	8
4年機械工学科	8
4年電気情報工学科	8
4年電子制御工学科	9
4年物質工学科	9
4年建築学科	9
専攻科1年	10
寮生会便り	
寮行事紹介	10

トピックス	
吹奏楽部	11
まちづくり、最優秀ポスター賞	11
地域交流	
スーパーエンジョイ科学館	12
公開講座	13
国際交流	
インドとの交流	14
韓国との交流	15
後期行事予定	15
専攻科（振興奨励賞）	16
学会賞	16
編集後記	16

クラブ活動・各種大会報告

学生主事 一般科目 森田 典幸

本年度は本校を主管校として中国地区で全国高専体育大会が開催され、本校は8月18・19日にバスケットボールを翌週25・26日に陸上、剣道、バスケットボールを担当しました。学生や教職員の皆様には競技役員、補助員として協力していただき、無事大会が終了できました。ありがとうございました。

大会では卓球女子ダブルス優勝、テニス男子ダブルス3位をはじめとして陸上・柔道女子・水泳で入賞者がありました。またインターハイには卓球男子シングルスとボクシングが出場しましたが、全国の壁は高く、今年は入賞者がありませんでした。

文化系ではNHK杯全国高校放送コンテストに出場した放送部が創作ラジオドラマ部門で準優勝し、参加した5部門全てで好成績をあげました。

これから各種コンテストや学会発表などが続きます。活躍を期待しています。

主な成績一覧

第47回全国高等専門学校体育大会 (平成24年8月17日～8月28日)

■陸上

男子 200m	予選敗退 (3組6位)
	5E 岩浅 純平
男子 やり投げ	16位 5E 角 浩志
女子 砲丸投	6位 3D 藪原 有綺
オープン女子 円盤投	
	4位 3D 藪原 有綺
男子 走幅跳	7位 2E 山脇 克海
	15位 2M 勝部 侑磨
オープン男子 200m	
	68位 5E 松本 凌
	23位 4E 門脇 瑞樹
	67位 1D 佐倉 康
オープン男子 1500m	
	20位 4D 西村 康祐
	23位 2C 井田 大貴

■バスケットボール男子 予選リーグ敗退

■バスケットボール女子 1回戦敗退

■ハンドボール 3位

■柔道

女子48kg級	3位 3C 南口 弓子
---------	-------------

■卓球

女子ダブルス	1位 2C 大畑ひかり
	1D 但井 友美
女子シングルス	3位決定トーナメント 敗退
	2C 大畑 ひかり
	3位決定トーナメント 敗退
	1D 但井 友美

■水泳

男子200m平泳ぎ	4位 5A 村尾 太一
男子100m平泳ぎ	5位 5A 村尾 太一
	予選敗退
	2A 森田 悟史
男子400mメドレーリレー	7位
	5A村尾、3C稲葉、2A森田、1E澤田
男子200m個人メドレー	予選敗退
	2A 森田 悟史

■テニス

男子ダブルス	3位
	5D 横山 大志・5D 藤村 駿造
女子シングルス	1回戦敗退
	3D 佐々木 泉
女子ダブルス	1回戦敗退
	2A 塩見美沙紀・2A 丸木ユリア

■バドミントン

男子シングルス	2回戦敗退
	2D 渡邊 佳太
男子ダブルス	1回戦敗退
	5E小池 俊介・4M小堺 拓実
女子シングルス	2回戦敗退
	3C 大江 ひかる
女子ダブルス	2回戦敗退

■卓球

男子団体戦	1回戦敗退
	5E小池、4M小堺、4E足立、4E阿部、4A青田、2D渡邊、2E近藤、1E生本
女子団体戦	2回戦敗退
	5C水谷、4A千原、3C大江、2E宮原、2C萩野

■剣道

男子個人戦	1回戦敗退
	4M 上野 竜馬
男子団体戦	予選リーグ敗退
	4M上野、4E内田、4E秦、3A川上、2E前田、2D田中、2E岩敷
女子団体戦	予選リーグ敗退
	4D下垣、4C松村、4C久保田、3C乾

平成24年度全国高等学校総合体育大会 (平成24年7月28日～8月20日)

■卓球

男子シングルス	1回戦敗退
	3D 石塚智大
	2M 永井知明

■ボクシング

バンタム級	1回戦敗退
	3E 松永勝利

その他の大会・コンテスト

■全国高等学校野球選手権大会鳥取県予選

一回戦	米子高専 1ー7 鳥取商業高校
-----	-----------------

■第65回鳥取県選手権水泳競技大会

男子200m平泳ぎ	1位 5A 村尾 太一
男子100m平泳ぎ	2位 5A 村尾 太一
男子400mリレー	3位
	5A村尾、3C稲葉、2A森田、1E澤田
男子200mリレー	4位
	5A村尾、3C稲葉、2A森田、1E澤田
男子400mメドレーリレー	4位
	5A村尾、3C稲葉、2A森田、1E澤田

■第53回全日本吹奏楽コンクール中国大会

大学の部	銅賞
------	----

■第59回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会

ラジオ ドキュメント部門	準々決勝敗退
テレビ ドキュメント部門	準々決勝敗退
創作ラジオドラマ部門	準優勝
創作テレビドラマ部門	制作奨励
校内研究発表会	研究奨励

■第51回全国合唱コンクール鳥取県大会

大学の部	銀賞 (中国大会進出)
------	-------------

■第79回NHK全国学校音楽コンクール鳥取県大会

高等学校の部	金賞 (中国大会進出)
--------	-------------

■第19回全国高等専門学校将棋大会

団体戦	ベスト8
個人戦	ベスト16
	3D 塩見 竜平
	2回戦敗退
	3D 八木 智弥

■第17回全日本高校・大学生書道展

展賞	4E 前田果澄 4C 増田 萌
優秀賞	4C 三島瑠美

ハンドボール部:全国大会3位

5E 玉井 将也

今年の全国高専大会は、広島の実で8月22、23日に行われ、私たちは3位になることができました。

一試合目の東京戦では、初戦ということもあり緊張が目立ちましたが、試合をしていくうちに緊張がとけ、最終的には大差で勝つことができました。しかし、二試合目の鈴鹿戦は、前半は一点差でリードされ、後半になっても試合は均衡する苦しい試合展開で残り1分まで1点差で負けていました。この状況を次世代のエース石賀君の同点ゴールで打開すると、残り1秒でエース立道が逆転シュートを決めて勝利し、翌日の決勝トーナメントに進出することができました。

決勝トーナメントの相手は、昨年度優勝校の徳山でした。徳山はとても手強く、常にリードされる展開でしたが、必死に食らいついて、後半終了間際には逆転することができました。しかし、最後にミスがでて逆転され、結果は一点差で負けてしまいました。とても悔しさの残る試合となりましたが、現役最後が一番いい試合ができたと思います。この悔しさは後輩たちが晴らしてくれると信じて私たちは、呉を後にしました・・・

最後に、応援や援助して頂いた先生方やOBの方々、保護者の皆さん、本当にありがとうございました。今後とも米子高専の応援をよろしくお祈りします。



柔道部:女子個人全国3位、団体中国4位

顧問 一般科目 永井 猛

柔道の中国大会は7月7日、徳山大学第2記念館武道場で開かれました。男子団体戦(5人戦)は予選リーグで、優勝した松江高専に2-3で負けたものの、徳山高専に3-2、宇部高専に3-2と勝ち、ひさしぶりに決勝トーナメントに進出しました。津山高専に1-4、大島商船高専に1-3と負け3位以内には食い込めませんでした。ベスト4に輝きました。これには、団体の5試合すべてに一本勝ちした中曾哲史君(4E)の活躍に負うところが大きいです。

全国大会は8月23日、キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター(メインアリーナ)で行われました。本校からは女子個人戦48kg級に南口弓子さん(3C)が参加しました。南口さんは準々決勝で相手を背負いで投げて「技あり」をとり、そのまま押さえ込んで勝ちました(写真)。準決勝は優勝した近畿大学高専の選手に内股から押さえ込まれて負けてしまいましたが、3年連続となる全国3位入賞を果たしました。これも南口さんの日頃の練習の賜物だと思います。入賞を讃えると共に柔道部員のさらなる活躍を祈っています。



陸上競技部の大会報告

顧問 一般科目 南 雅樹

第48回中国高専陸上競技大会は、昨年の国体会場である維新百年記念公園陸上競技場(山口市)で開催されました。団体(男子6位、女子2位)、優勝者1名、全国高専大会出場権獲得が5名と昨年度よりも増えましたが、リレー種目の出場は叶わず、全国高専大会の開催校としては残念な結果となりました。

第47回全国高専陸上競技大会は、8/25~26鳥取市の布勢総合運動公園(コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場)で開催され、本校からは男子4名、女子1名の合計5名が参加しました。入賞者は、男子走幅跳の山脇君(2E)が7位、女子砲丸投の藪原さん(3D)が自己新記録で6位と昨年度の入賞者0名から躍進し



女子砲丸投(3D 藪原)



男子走幅跳(2E 山脇)

ました。全国各地で頑張っている陸上競技部OBOGも多数駆け付けてくれて、現部員とともにスタンドから声援を送る姿が見られました。

今大会は、本校が開催校に決定してから教職員、部員ともに総力を挙げて準備を進めてきました。競技を運営する鳥取陸上競技協会から最大限のサポートを得て、主催でもある(財)日本陸上競技連盟の事務局長から頂いた『素晴らしい大会でした』の言葉通り、猛暑の中で全国高専記録や大会新記録が多数誕生しました。

最後に、35名の陸上競技部員が、準備日を含めて3日間早朝から夕方まで補助員として大会の運営に頑張りました(選手も自分の競技後には補助員として)。この大会を通して競技者として、高専の学生として更に大きく成長してくれたと感じました。



集合写真

全国高専テニス大会・個人戦男子ダブルスで 横山(D5)・藤村(D5)ペアが銅メダル獲得

硬式テニス部主将 D5 横山 大志

全国高専テニス大会は、8月21日～23日にかけて松江総合運動公園テニスコートにて開催されました。私自身3回目の参加となる全国大会でした。昨年は、2回戦で敗れてしまったので「今回こそはメダルを!」と思い参加しました。

1回戦は団体優勝した旭川高専、2回戦は九州地区1位の鹿児島高専と対戦し、勝利しました。準決勝は中国地区1位の徳山高専と再戦し敗れ、結果3位でした。

自身最後の全国高専大会で3位に入り表彰式で首にメダルをかけてもらった時は、自分達の5年間で認めてもらえたようで嬉しく思いました。

最後に、顧問の先生方、地元BSCテニス・クラブの方々、OB、OGの先輩方にはテニス・プレーヤーとしてだけでなく、1人の人間としてボールを通すことで様々なことを教えていただきました。

この5年間は私の一生の宝物になると思います。



夏の大会報告 -第46回全国高専体育大会 卓球競技 女子ダブルス優勝他

卓球部指導教員 電子制御工学科 河野清尊

8月18日・19日に津山総合体育館で行われた全国高専体育大会卓球競技の女子ダブルスで、2C大畑ひかり・1D但井友美ペアが初優勝を飾りました。二人とも女子シングルスに出場しましたが、3位以内に入れなかったことを考えると、ダブルスは1+1の力が3にも4にもなるということを改めて教えてくれたように思います。たくさんの方の応援ありがとうございました。

インターハイが7月31日から8月5日まで長野市のホワイトリングで開催され、男子シングルスに3D石塚智大と2M永井知明が出場しました。結果は惜しくも1回戦敗退でしたが、貴重な経験を積むことができました。

また、国体中国ブロック大会(ミニ国体)が8月11日・12日に呉市総合体育館で開催され、少年男子の鳥取県代表として3D石塚智大(選手)と河野(監督)が出場しました。結果は0勝4敗の5位で本国体出場はなりませんでした。こちらも貴重な経験を積むことができました。



インターハイ出場

水泳部:全国大会を終えて

水泳部主将 3C 稲葉 幹平

今年の全国大会は、8月26日に広島ビッグウェーブで行われ、5A村尾・5M松原・3C稲葉・2A森田・1E澤田が出場しました。

5人は、この日を目指して死に物狂いで練習に励んできましたが、全国の壁は厚く満足のいく順位ではありませんでした。泳ぎ終わった後は、悔しいなどの感情は飛び越えてしまい、言葉にならない感情を味わいました。このようなふがない泳ぎに対しても、身震いするほどの大声援を送っていただいた30人全員の水泳部員、顧問の先生、教職員の方々、OB・OGの方々には深く感謝いたします。あり

中国地区高専テニス大会を終えて

硬式テニス部 顧問 新田陽一

中国地区大会は7月7・8日に宇部マテ「フレッセラ」テニスコートで開催されました。

男子は団体戦が準決勝で徳山に0-3で敗退、シングルスには4名が出場してベスト8が最高でしたが、ダブルスでD5横山・D5藤村ペアが準優勝し、昨年度に続いて全国大会への切符を手に入れました。

一方、女子はシングルスでD3佐々木が3位、ダブルスでA2塩見・A2丸木ペアが同じく3位という成績を収めました。

全国大会への出場は本来2位までですが、松江高専の選手が上位を占めたため、開催校枠により3名とも全国大会へ出場することになりました。



第48回中国地区高専体育大会に初めて参加してみた

卓球部指導教員 電子制御工学科 角田直輝

卓球部の大会参加学生 28 人のうち応援学生が16 人もいたことは、私にとっては非常な驚きでした。チームの大事さを部員の皆が理解しているのだと、その数だけで感じました。

もっと驚いたのは実際の組織的な応援でした。教員の指示がない中で、特に高学年の学生が率先して試合順や人数を把握しながら応援を指揮していました。その結果、中国地区の並み居る高専の中で際立って大きな声を会場内に響かせていました。試合の結果の如何にかかわらず、米子高専は気持ちで他高専のどこにも勝っていると感じました。

自分の役割を最初から最後まで演じきるのには難しいものです。しかし、卓球部の学生達は各人が明確な目的に沿って行動し、皆で米子高専を誇っていました。私も学生に混じって声援を飛ばしました。喉が枯れるほどに応援できたのは、選手の真剣な勝負姿勢だけでなく、応援学生の姿勢にも胸を打たれたからです。



柳江市体育館前で全員集合

ありがとうございました。そして何より、僕らを常に見守り常に応援し続けてくれた家族には、「ありがとう」では足りないほど感謝しています。

僕自身、米子高専水泳部で出会えた先輩、後輩、同級生の皆に出会い一緒に泳ぐことができるとても幸せでした。今回の試合で競泳人生最後のレースでしたが、とてもよい仲間と締めくくることができました。今後は、部員全員で上の順位を目指して練習に励んでくれると思うので、皆様の熱いご声援よろしくお願いします。



【放送部】NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会にて準優勝!

鳥取県勢初の決勝進出!

3年 建築学科 松本里佳子

私たち放送部は7月24～26日に東京で開催された、第59回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会(Nコン)の創作ラジオドラマ部門で準優勝しました!また、創作テレビドラマ部門でも制作奨励(同率11位)を受賞しました。

Nコンは、毎年1,600校以上の参加がある大規模な大会です。全国大会には、各県大会で選ばれた代表作品しか出場できませんが、今年、我々放送部は、鳥取県史上初となる県大会番組全4部門での最優秀賞受賞(4冠)を達成し、5年連続全国大会出場を果たしました。全国大会ドラマ部門では、準々決勝で100本の参加作品が20本に絞られ、準決勝で更に3本まで絞られます。決勝進出が発表されたNHKホールでは、部を代表して全国大会へ参加した15名の部員で狂喜乱舞でした。決勝戦まで進出したのは、鳥取県勢としても初の快挙です。

準優勝したラジオドラマ「リスニング・リーヴィング」はもちろん、サッカー部や合唱部の方に協力いただいて撮影したテレビドラマ「ロスタイムメロディ」も力作です。惜しくも全国での受賞は逃しましたが、卵殻膜を用いた太陽電池の研究をしているB&C研究同好会を取材したラジオドキュメント作品「輝く科学者の卵たち」、米子高専生が持っている“高専バッグ”の謎を追求したテレビドキュメント作品「高専バッグ to the Future」も見応えのある作品に仕上がっています。また、同時に行われた校内放送研究発表会にも出場し、iPadを“カチンコ”にできるアプリを独自に開発して紹介しました。制作した作品は、学園祭の放送部企画などで上映しますので、是非ご来場下さい。

これらの制作には、3年生以下33名の部員で取り組みました。新たに入部してくれた1年生16名がしっかりと仕事をしてくれました。大所帯となった放送部ですが、今後も皆が楽しんで作品を創り、来年も新たな歴史が残せるよう頑張りたいと思います。最後に、今回取材・撮影にご協力頂いた皆さま、本当に、本当にありがとうございました。

ラジオドラマ「リスニング・リーヴィング」ができるまで

3年 建築学科 潮 駿太郎

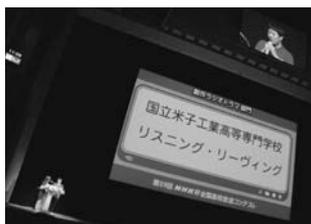
ラジオドラマの脚本を担当した潮です。3年生ですが、実は、昨年12月に入部したばかりのペーペーで、吹奏楽部と掛け持ちをしています。自分が吹いているトロンボーンを活かすため、作中の父親を楽団員とし、家で楽器の音を出している設定としましたが、作品を聴く度に自分の演奏の下手くそ加減が気になってしょうがありません…。

この作品は、4,5月を企画会議に費やした末、生まれた産物です。ゴールデンウィークもほとんど会議室に籠もって、皆で黒板を囲む日々でした。アイデアを出しては、没にするという繰り返しが続きました。本作は、当初、全く違う家族愛の話でしたが、登場人物を減らしていった結果、父娘の親子愛の話となりました。父を嫌う娘が父から離れる手段として留学を考えているということになり、じゃあリスニング教材を聴いているだろうから、その音声ドラマの案内役に使おうといった具合に骨組みが決まっていきました。娘が何故父親を嫌っているのか、アイデアを捻出す作業では、意外に父親好きの部員が多いことが判明し、作業は難航しました。その分、脚本執筆の時間は少なくなり、自分は、寝る間を惜しんで、書き直しを繰り返しました。今思えば、よく倒れなかったなと思います。とは言え、決して、自分1人でこの作品が出来た訳ではありません。自分が吹奏楽部で不在のときも2E小西さんが中心になって会議を進行し、収録、編集も泣き言ひとつ言わず、さりりとこなしてくれました!会議には、ラジオ班以外の部員も入れ変わり立ち替わり参加してくれました。また、1年生に制作をお願いしたSEなどは想像以上の出来でした。テレビにも主演して忙しかった3A松本部長を主演に引き込めたこと、英語朗読が得意な3E平賀君を部外からキャストに迎えたことも大きかったと思います。互いに補い合い、皆でつくった作品です。みんなありがとう!!!

放送部が制作するラジオ番組
「米子高専エンジン×ピープル」
毎月第1日曜日22時～
DARAZ FM(79.8MHz)にて放送中
放送開始2周年を迎える10月5日(金)
の放送では、「まんが王国とっとり」からの
支援を受け、米子市の太田農園さんや米
子高校漫研と連携したラジオドラマ「いち
ご妖精見習いペリな」第2話を放送します!



創作テレビドラマ部門でも制作奨励を受賞!



決勝戦にてNHKホールの舞台上に立った潮君



凱旋!喜分会(喜びを分かち合う会) @放送部での集合写真

放送部誕生秘話

一般科目 放送部創設者・顧問 酒井 康宏

「準優勝は…国立米子工業高等専門学校のリスニング・リーヴィング!」と昨年度のアナウンス部門で優勝した司会者が高専の名を読み上げた時、私は胸がじーんと熱くなった。その思いは1995年に遡る。この年、ケーブルテレビが自主製作の番組を放送してくれていて、高専も学校紹介ビデオをつくることになった。番組名は「発信いきいき技術」。当時2,3名の教職員で17:00から編集作業を始め、約1週間かけて1本30分番組を制作した。完全にボランティアの仕事である。制作ペースは、年2,3本。その2年後、我々の仕事を手伝いたいという学生が2名いて、「放送同好会」が結成された。学生に番組制作のノウハウを教え、何とか軌道に乗り始めた。放送部が部昇格を果たしたのは、2002年のことである。私は、部昇格をかけて体育系クラブ顧問の先生方に、「部費を1,000円下げてください。それを放送部設立に回してください」と頼み込んだ。NHKホールでその当時の思い出が甦っていた。設立当時2名だった部員も今や優に40名は超す。諸君のさらなる発展を望む。

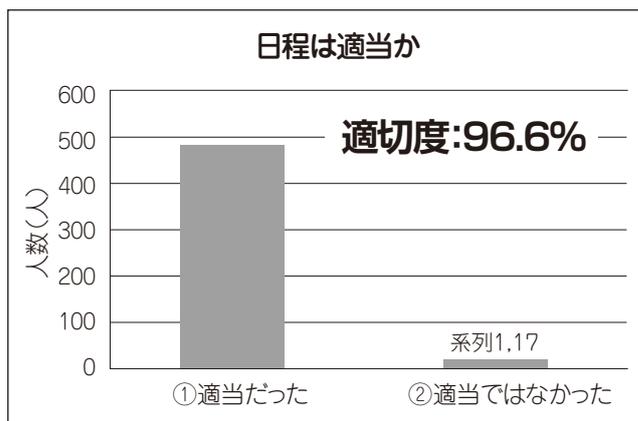
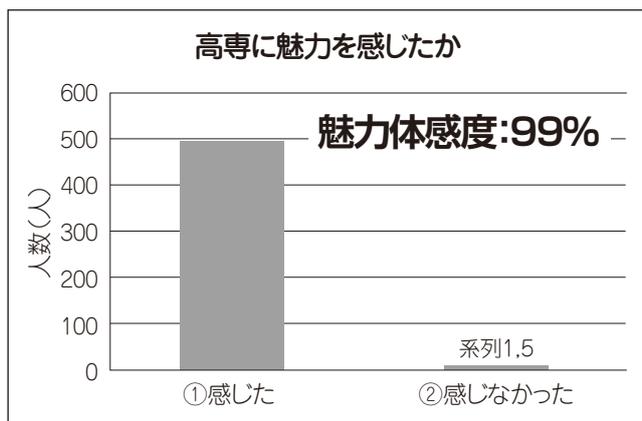
オープンキャンパス（学校見学会）

8月10日（金）に中学3年生を対象に第1回オープンキャンパスを開催しました。中学生555名、その他保護者、引率者約180名という多数の方々に参加していただきました。

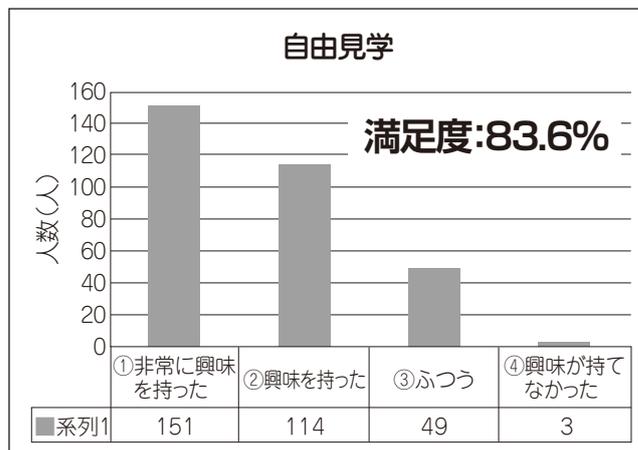
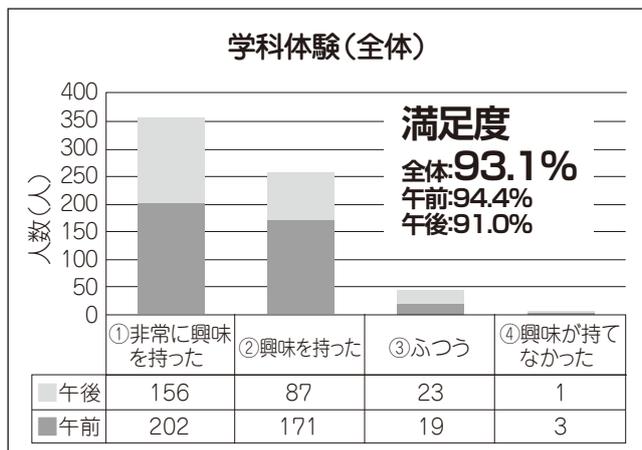
参加者が多かったため、4会場に分散して学校・学科の概要説明を行い、その後に午前の学科体験を行いました。また、昼には食事休憩を兼ねた校内自由見学を行いました。なお、そのとき学生会役員にガイド役をつとめてもらい、参加者の皆さんから好評をいただきました。

続いて、午後の学科体験を実施し、希望者には寮の見学もしていただきました。当日の様子をアンケート結果と合わせてお知らせします。

- アンケートの結果、米子高専への満足度は約99%、また、オープンキャンパスの開催時期が適切であるという回答は約97%にのぼりました。



- アンケートでは学科体験や校内自由見学の満足度も答えてもらいました。その結果、学科体験の満足度は約93%、自由見学は約84%となり、このことからオープンキャンパスが大成功であったことがうかがえました。



- アンケートに寄せられた感想の中から特徴的なものを以下に示します。

○オープンキャンパス全体に対する感想

- ・説明がわかりやすく、先輩の方々もとても優しくかった。
- ・いろいろな場所に行くことができて楽しめた。
- ・とても良い体験ができ、高専に入りたいという気持ちが強まった。
- ・きめ細かい配慮を感じました。生徒の説明もよく、指導も行き届いていると思いました。
- ・初めは難しいイメージがあったけど、全体を通して楽しいイメージにか変わった。
- ・ひとつひとつの説明が丁寧でわかりやすくてよかったです。

■ 機械工学科



■ 印象に残ったこと

ジェットエンジンやロボットなどを見学しました。ぶんちん作りなどの実際の作業も好評でした。

■ 電気情報工学科



■ 印象に残ったこと

電気自動車が好評でした。また、ロボコードというプログラミングや音響実験にも関心が集まりました。

■ 電子制御工学科



■ 印象に残ったこと

プログラミング体験やiPadが好評でした。また、アイボなどのロボットにも関心が集まりました。

■ 物質工学科



■ 印象に残ったこと

液体窒素で花やボールを凍らせる実験が非常に好評でした。液晶温度計にも関心が集まっていました。

■ 建築学科



■ 印象に残ったこと

CADソフトを使った住宅設計が人気でした。また学生達の模型などの作品にも関心が集まっていました。

4年

平成24年度本科校外実習および専攻科インターンシップについて

平成24年度のインターンシップの受入可能企業数は昨年度より11社少ない173社でした。不況の波がインターンシップにも影響しているようです。県内企業に関しては、直接、本校に募集を行わず、産業振興機構に一任する形に変わってきていることも受入可能企業数の減少につながったと考えられます。

受入可能企業であっても受入学科の限定や書類による選考、先着順、就職を意識したインターンシップの実施を行っており、他高専生は当然として、大学生もインターンシップに本格的に参加している状況では、実際にはさらに厳しいものとなりました。しかし、参加する学生は、例年通り、最初から積極的に資料を調べていたものは、早々に実習先が決まりましたが、のんびりしていた学生は最後まで実習先が決まらないという結果でした。来年度の就職活動も非常に厳しいものとなることが予想されます。今回の経験が来年度の就職のためのよい経験となったと思います。

参加した学生にとっては、実社会を知る非常に有意義な時間であったようです。今回のインターンシップの経験が、いろんな意味で自分の学生生活や今後の進路に生かしてくれることを望んでいます。



学年主任
物質工学科
藤井 雄三

インターンシップに参加して 清水 隆弘

私は10日間矢崎総業(株)でインターンシップを行いました。最初の1~2日目は矢崎グループ企業の概要説明を受け、見学させていただきました。最初は緊張しましたが、多くの社員の皆様にアドバイスをいただき気が楽になりました。3~8日目はワイヤーハーネスの経路設計と回路設計を行いました。私はCADが苦手でしたが、基本的な質問に対して丁寧に教えていただき、無事にテーマをこなすことができました。最後にワイヤーハーネス設計の勉強をさせていただき、設計の難しさを実感することができました。今回のインターンシップでは社会人としての心構えや仕事の内容・目的を学ぶという私



の目標を達成することができ、自分にとって貴重な財産となりました。これを今後の高専生活に生かして行きたいと思います。最後になりましたが、紙面をお借りして、インターンシップでお世話になった矢崎総業(株)の皆様にご挨拶を申し上げます。ありがとうございました。

インターンシップを終えて 荒松 拓也

私は8月20~24日の5日間、広島大学のインターンシップに参加させていただきました。内容は光物性の講義と実験を行い、実験データを使って原子間距離などを算出し、最終日に発表を行いました。初日の光物性のラマン散乱と赤外吸収についての講義は、高専で学んだ物理の内容が含まれていたのになんとなく理解した気でしたが、それは最初の内、残りの時間はさっぱりで少しも理解できませんでした。

それからずっとテキストを使って勉強したのですが、なんとなく理解できたのは最終日になってからでした。物理関係は得意な方だと思っていたのですが、今回のインターンシップで自分の勉強不足を痛感させられました。この体験から高専で教えてもらえることは最低しつかりと身に付けなければならないと思いました。実習では他の高専の方と仲良くなることができ、泊まったホテルも大学内にあって快適で、充実したインターンシップになったと思います。

初めてのインターンシップ 小倉 脩平

私は、8月20~25日の6日間、「四国電力株式会社 総合研究所」へ行かせて頂きました。初日は事業案内、ビジネスマナー講座、懇談会などを催していただきました。2日目以降は、本社をはじめ、本川発電所、讃岐変電所、香川系統制御書での実習を体験させて頂きました。最終日には、グループでの報告会を行い、各コースで得たものを発表しました。



ビジネスマナー講座では「社会人としてあるべき姿」を学び、また、懇談会で実際の社員さんと関わることで、自分の将来像を見出すことができました。様々な施設での実習から水力・変電・給電への関心も強くなり、今後の勉学への意欲向上へと繋がりました。

6日間という長くも短い期間ではありましたが、その中で言い尽くせないほどのことを学びました。この良き貴重な体験をさせて下さった四国電力の方々、楽しい実習としてくれたインターンシップ生には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

インターンシップを通して 佐藤 健太

私は岡山県にある三菱化学株式会社水島事業所で、8月20~25日のインターンシップに行かせていただきました。実習内容は、会社説明、プラント見学、挟まれ・巻き込まれ体験講座、噴出・被液体験講座、火災爆発体験講座、設技現場実習、交流会、発表会がありました。水島事業所では、製品を主に製造しているのではなく製品を作るために必要な原料(誘導品)を製造しています。プラントにはタンク、様々な計器、塔、ポンプなどがあり、保全、管理、分析などがとても大変そうでした。

今回の実習を通して、『安全』への心の持ち方が変わりました。三菱化学は『安全』を第一に考え、階段昇降時には手摺りを必ず持つ、走るのは厳禁、指差呼称、火気厳禁、正しい服装の着用などを徹底していました。安全の反対は危険ではなく、無意識だと学びました。

このインターンシップで学ぶことがたくさんあったので、今後に活かしていこうと思います。



機械工学科

電気情報工学科

電子制御工学科

インターンシップに参加して 竹内 高裕

僕はインターンシップで日立アロカメディカル株式会社東京事業所と東京第一工場に行きました。ここは超音波診断装置や検体検査装置などの医療機器や放射線測定装置を製造している会社で、東京第一工場では主に超音波診断装置と検体検査装置を製造していました。実習では、超音波洗浄機やマシニングセンター、超音波診断装置など今まで使ったことのない様々な機械・装置を使わせて頂きとても貴重な体験をすることが出来ました。

僕が実習を通して一番感じたことは、社員の方の品質管理・向上に対する意識がすごく高いことです。一人一人が正確な作業をするのはもちろん、いたる所でミーティングが行われていて上司の方や、異なる部署の方同士で日ごろからコミュニケーションをとり、「報告・連絡・相談」を細かく行われていました。

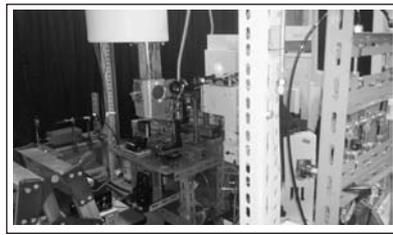
僕は今回のインターンシップで学んだことを今後の学生生活に活かしていけるよう努力していきたいと思っています。



インターンシップを終えて 板持 光宣

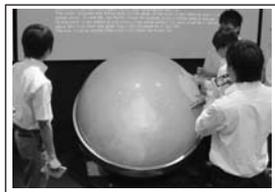
僕は、インターンシップで広島大学に行きました。そこで「光で見る原子の運動」について実習しました。レーザー光を物質にあてた際に、光は吸収、散乱します。今回の実験では赤外吸収とラマン散乱について学び、これらのスペクトルによって2原子3原子分子の原子間距離、結合の力の定数を計算で求めました。また、2原子3原子分子では選択則が異なることが分かりました。

今回やった内容は難しくなかなか理解できなかったけど、研究所の方々の説明はわかりやすく、わからない事があって何度も質問しても、丁寧に質問に答えて頂き、とても充実したインターンシップでした。



インターンシップに参加して 香川 奈緒子

私は大阪ガス株式会社のインターンシップに参加させていただきました。最初の3日間は先輩社員の方々による座学や各関連施設の見学を通して、大阪ガスの展開するマルチエネルギー事業について理解を深めました。6日目からの3日間はコース別実習となり、私は姫路製造所にて、液化天然ガス(LNG)を用いた都市ガスの製造や発電をはじめ都市ガス製造により生じる熱の有効利用が実施される現場で、実際のオペレーター業務や保安作業を幅広く体験させていただきました。安全対策に一番に重点を置く現場業務において、指差呼称や連絡の復唱等の確認作業がいかに重要であるかを痛感すると共に、社員の方々の仕事に対する誇りと情熱を肌で感じる事が出来、非常に良い刺激を受けました。また全国より集った他高専の学生の皆さんとの出会いは私にとって大きな財産となりました。この度の貴重な経験を活かし、残りの学校生活をより有意義なものにしたいと思います。



インターンシップに参加して 才原 知里

私はインターンシップで5日間、旭化成株式会社の水島製造所に行きました。そこでは、私たちの生活に身近な製品の原料となるものを数多く製造しています。今回のインターンシップでは樹脂などの原料となるスチレンの製造現場で実習を行いました。そこでは、製造現場の使命としての安全・安定運転の確保と生産性の向上などについて学びました。また、それを学んだ上で実際に行われている作業も体験することができました。

今回のインターンシップでは、製造現場が安全・安定のために日々どのようなことに取り組んでいるのかを知ることができました。そこには、普段の実験などにも通じる部分があったため、今後に生かしていきたいと思います。また、製造現場で働いておられる方々を実際に見ることや話しを直接聞くことができたため、働くということについて考える機会となりました。短い期間でしたが様々なことを学ぶことができたため貴重な体験ができたと思います。



設計事務所での実習で学んだこと 藤山 愛己

私は8月20日～24日の5日間、NTTファシリティーズという大手組織設計事務所の中国支店でインターンを行いました。今回の実習では、実際の業務であるプロポーザル案検討のために必要な「敷地模型・建物ヴォリューム模型作成」と「アリーナのインテリア計画」の2つの課題に取り組みました。模型は社員の方が行う設計検討に使うものなので製作には精度が要求されました。インテリア計画は、何度もイメージを描きながら作業をしていくなかで、その発想と知識の多さにとても驚き、もっと自分からたくさん知識を身につけていかなければならないと思いました。実習中は建築学科を卒業した先輩にもお世話になりました。社員として働いている先輩のお話を聞くうちに、自分もこんな風に仕事をしたいという思いが強くなりました。そのためには、先輩に一步でも近づけるよう進んで努力していきたいと思っています。



建築施工会社での実習で学んだこと 上田 信良

私は美保テクノス株式会社の工事現場で、5日間インターンをさせていただきました。工物件は米子市加茂町の銀行新築工事でした。現場では基礎と地中梁のコンクリート打設工事を行っているところでした。今回の実習では、工事に必要な書類や図面の種類、現場での仕事の流れ等を教わったり、コンクリートの強度試験の見学や、実際に現場で使用されるコンクリートの数量積算などさせていただきました。また、定例会議といって、施工と設計の担当者が毎週集まり、今後の予定や報告事項等を話し合う会議に参加させて頂いたのですが、そこでの会話は専門的で自分には理解できない事ばかりでした。会社で通用するためには、まだ学ばなければならないことが多く、今後は意欲的に勉学に励まなければと実感しました。短い期間でしたが建築の知識は勿論、学校で学んでいることがどのように現場で活かされているのかを学ぶことが出来た貴重な五日間でした。



物質工学科

建築学科

専攻科1年

インターンシップを終えて

物質工学専攻
安田 一平

私は愛知県豊橋市にある日東電工豊橋事業所の基盤技術部粘着技術グループで、2週間インターンシップを受けさせていただきました。豊橋事業所では、粘着テープ全般を製造しており、研修では自分たちで粘着剤の配合比を計算するところから、作製した粘着剤の評価まで体験させていただきました。実際に仕事を体験して思ったことは、学校で学んでいるような難しいことよりも、基礎の重要性を改めて実感しました。また、会社内ではゴミの分別を徹底しており、社員ひとりひとりの環境問題に対する意識の高さを感じられました。2週間という短い間でしたが、普段の生活からはできない様々な体験をすることができ、自分にとって今後につながるいい刺激になったと思います。とても充実したインターンシップでした。



美保テクノス株式会社建築部住宅課での校外実習を終えて

建築学専攻
渡瀬 茜

私は美保テクノス株式会社さんに10日間校外実習でお世話になりました。実習内容は、モデルハウスを設計し発表することが主でした。今回の校外実習を通して働いている方々の意見を聞きながら、「実際に建つ」ということを考え住宅設計に取り組むことができました。提案した住宅は、材料の選定や外構計画を行う上で色や見た目・雰囲気重視し、汚れやすい白い壁や住む人の手入れが大変な落葉樹ばかりを選んでしまいました。今後、材料の性能、効果を学び多くの材料を知る必要があると感じました。また、IPDセンターにお世話になり、3Dモデルの作成を学びました。3Dモデルによるイメージの掴みやすさを自分自身で経験したことにより、図面や発表の見やすさ、分かりやすさを客観的視点から考えることができました。残りの学校課題や就職後の設計に今回の経験を活かしていきたいと思っています。



寮生会便り

初めての寮祭

1年物質工学科 原 美咲

1年生の私にとって、今年は初めての寮祭だったので分からないことばかりで緊張し、準備などでは率先して動けず、先輩にたくさん迷惑をかけてしまいました。ですが、終わってみるとどれもいい思い出です。

2日間の寮祭ではダンス、「出会いの広場」、「ビジュアル」(男女ペアでの仮装)といった企画に参加しました。1年生全員で振り付けを考えたダンスでは、日々練習していくなかで、同級生たちとより深い絆を育めた気がします。「出会いの広場」では、初めて話した人とだんだん打ち解けていく感じが楽しかったし、「ビジュアル」では優勝してしまいました。

来年もいろいろな企画に参加してみようと思います。



球技大会

3年電気情報工学科 早苗 大樹

今年度の前期高砂寮球技大会は5月9日に行われました。今回もバスケットボールとバレーボールを行いました。球技大会は寮生みんなが楽しみにしている大事な行事です。毎回上級生が上位を独占してきましたが、今回は下級生同士の決勝が行われるなど下級生の活躍が目立ちました。留学生にも楽しんでもらうことができました。運営面でみんなに迷惑をかけることがありました。しかし、寮生会役員に手伝ってもらいながら無事球技大会を終えることができました。球技大会を運営させていただいて、準備の大切さやみんなに楽しんでもらう難しさなどたくさんのことを学びました。後期の球技大会は今回学んだことや反省をいかして運営していきたいと思っています。



廃棄物資源循環学会で最優秀ポスター受賞

物質工学専攻2年 渡邊 健太

平成24年5月31日(木)から6月1日(金)の2日間、川崎市産業振興会館において廃棄物資源循環学会の平成24年度研究討論会が開催され、その中のポスターセッションにおいて私は最優秀ポスター賞に選出していただきました。

本学会では、日常生活から社会の生産活動に至る廃棄物の諸問題や資源循環に纏わるテーマについて、市民、企業、行政の様々な立場からの議論を通じて理解を深めることを目的としています。発表内容は「卵殻のリサイクルによる色素増感型光電池の作製」です。

今回は、B&C同好会において進められている卵殻膜の新規機能創出に関する研究成果を発表しました。廃棄物資源循環学会で発表を行うのは本校では初めてのことでしたが、学会では研究内容についての反響も大きく、議論を行う中で様々な提案を受ける実りの多い発表となりました。学会は廃棄物に視点を置いた企業、大学等の様々な分野の研究者で構成されており、異分野の先生方や企業の方からの質問はとて新鮮に感じました。有名大学や国立研究所などの研究者が発表者となっていた中に混じり、このような素晴らしい評価をいただけたことはとても光栄に思います。今後参加を予定している10月の同学会による研究発表会や11月に行われるデザコンでもさらによい評価をいただけるように、より一層の努力を重ねていきたいと思っております。最後になりましたが、実験および発表準備の際に指導していただいた谷藤先生、学生メンバーの皆様には厚く御礼申し上げます。



日南町秋原地域での農業体験を通じたまちおこし活動

建築学科 細田 智久 小椋 弘佳

建築学科の細田研究室と小椋研究室では、2011年度から鳥取県の「みんなで取り組むとっとり井手・ため池保全活動支援事業」の一環として、日南町秋原地域での米子高専、地域住民及び子育て支援を行うNPOグループとの協働によるまちおこし活動に参加しています。秋原地域で登録有形文化財に指定されている古民家民宿「かつみや」を拠点として、自然を活かした地域と農業の継続に向けた活動を行っています。

2012年6月23日(土)には、水田での田車押しと草刈り機を使った除草などの農業体験や、水田の水源である滝までの沢の清掃活動を行いました。両研究室の4、5年生15名が参加し、地域の方や参加者の子どもたちとの交流を深めました。これらの体験を通じて、学生たちは、高齢者や子どもなどの多様な世代とコミュニケーションを行う能力を高めると共に、中山間地域の自然や景観といった環境資源に触れる良い機会を得ることができました。今年11月の高専祭では、この水田で収穫した米を使ったおにぎり屋を模擬店として出店する予定です。

さらに、建築を学ぶ学生の専門的な知識や能力をこの地域のまちおこしに活かすため、現在はこの地域で沸く温泉を楽しむための入浴建屋の計画に取り組んでいます。学生たちはここ数ヶ月の間、入浴方法や建物の外観アイデアを練ってきており、これを基に夏休みの9月には、地域の方々やアイデアを出し合って基本的な設計図を作ることを予定しています。



吹奏楽部の行事報告

吹奏楽部顧問 山田 祐司

●吹奏楽コンクール鳥取県大会大学の部

7月22日(日)に米子市文化ホールで行われた標記のコンクールに出場しました。一昨年から高専の夏休みの時期が変わり、コンクールへの出場が難しくなりましたが、昨年からの吹奏楽連盟の特別な配慮で大学の部のみを別日程で単独開催してもらい、今年もコンクールへ出場することができました。(県大会の他の部門は8/3～5という、高専の前期末試験の真っ最中に開催されています。)結果は銀賞でしたが、中国大会への推薦はいただきました。(演奏曲目:課題曲一マーチ・希望の空、自由曲一太陽の詩(高橋宏樹))出場者数は16名でした。

●吹奏楽コンクール中国大会

中国大会は8月25日(土)に鳥取市のとりぎん文化会館(梨花ホール)で開催されました。大学の部には中国5県から大学6団体、高専2団体(米子、松江)が出場しました。米子高専の出場者数は県大会よりは2人増えて18人でしたが、他の出場団体と比べると1/2～1/3という少なさです。結果は銅賞でした。来年は新入生をたくさん獲得して部員を増やし、銀賞以上を受賞できるように練習に励みます。

●定期演奏会予告

平成25年1月27日(日)に米子市文化ホールで第23回定期演奏会を開催します。この演奏会に向けてコンクール後から練習をしています。たくさんの方のご来場をお待ちしています。



県大会でのステージ、演奏前の様子



中国大会での演奏終了後の記念写真撮影の様子

エンジョイ科学館

8月22日に「エンジョイ科学館」を開催し、鳥取・島根両県の中学生76名が参加しました。今年で18年目となる本イベントは、若者の「理系離れ」に対応するため、本校の専門性を生かした講座を通じて科学への興味と学習意欲を高め、科学的思考能力と想像力の育成に資することを目的としています。参加した生徒たちはものづくりの難しさや楽しさを満喫し、科学に親しむ有意義な一日を過ごしました。本校の学生による丁寧な指導も大変好評でした。

機械館

レスキューロボコンに出場しよう!



- ・自分たちでロボをつくって動かしたり、物を運ぶ試合をして面白かった。
- ・作るのも結構手の込んだもので、ロボコンも楽しめた。
- ・全員で楽しめて良かった。

電気情報館

エアースhootサッカーロボをつくろう!



- ・対戦して楽しかったし、興味をもてるようになった。
- ・作るのが面白かった。
- ・とても楽しくできた。

電子制御館

コンピューターロボットを作ろう!



- ・自分でプログラミングできたのでおもしろかった。
- ・ロボットにいろいろな機能をつけて、面白い行動ができてよかった。
- ・将来はもっと複雑なプログラムができるようになりたい。

科学捜査館

DNA鑑定で犯人を捜そう!



- ・自分の指紋をビーカーにつけて粉をかけ調べるのが面白かった。
- ・すごく本格的で面白かった。
- ・学生の方が優しかった。

建築館

軽くて強い橋の模型をつくろう!



- ・紙なのに28kgも持つことがすごかった。
- ・形が決まっていたので、自分で考えた橋をつくってみたい。
- ・とても面白かった。また参加したい。

公開講座

家庭発！リサイクル&エコ工作进行しよう

技術教育支援センター 横田 晴俊

7月28日（土）、技術教育支援センター主催の公開講座【家庭発！リサイクル&エコ工作进行しよう】を実施いたしました。本講座は当センターが主催する6年目の講座で、【リサイクル】と【エコ】をそれぞれテーマとした2種類の工作を用意しました。夏休みとあって毎年多数のご応募を頂いており、今年も小学生3・4年生と保護者の方からなる総勢9組18名がご参加くださいました。リサイクルをテーマとした【不用品を使ったフォトフレーム作り】では、ボタンやキャップなどの数十種類の身の回りにある不用品を、子どもたちは自分の感性のままに、時には「それは変でしょ〜」という大人からのアドバイスを受けて頬を膨らませながらも、楽しそうに段ボールに飾り付けていました。また、エコをテーマとした【電源のいらぬ鉱石ラジオ作り】においては、親子共同でのアンテナ巻き作業の是非がラジオの性能に大きく影響するため、どの組も熱心に作業に取り組む様子が見られました。組立て完成後、窓際で耳に神経を集中しラジオのテストする子どもたちの表情は真剣そのもので、音が聞こえると嬉しそうにイヤホンを保護者の方に渡している姿が印象的でした。



鉱石ラジオを持って集合写真



フォトフレームの製作風景



鉱石ラジオの製作風景



鉱石ラジオ確認中！

JENESYSインド訪日団と”ものづくり体験型学生交流”

特任主事（国際交流等） 香川 律

（財）日本国際協力センター（JICE）が実施する国際交流事業「21世紀東アジア青少年大交流計画」JENESYSプログラムの一環として来日したインド高校生（鳥取グループ）が、6月14日、米子高専で学校交流を行いました。このプログラムによる学校交流は今回で三度目となります。米子高専を訪れたのは、在インド日本大使館・総領事館によってインド各地から選抜された日本や日本語に関心のあるインド人（高校生22名、引率者2名）および関係者28名で、開会式では、齊藤校長の歓迎挨拶に続き、特任主事から東日本大震災に際しインドから届いた支援への謝意が示された後、高専への留学制度の紹介が行われ、その後、インド高校生と専攻科生カウンターパート（C/P）が互いに英語で自己紹介を交わしました。交流イベントのメインである“ものづくり体験型学生交流”では、東日本大震災で活躍した災害対応ロボットと絡めたクローラ（キャタピラ）型ロボットのキット製作を行いました。学生たちはグループに分かれ、専攻科生C/Pの指導・助言の下、英語で話し合ったり、時に身振り手振りを交えながら約4時間に渡って“協働製作”に取り組み、完成したロボットを用いて行われた競技会では、歓声が上がり大いに盛り上がっていました。

生産システム工学専攻 2年 松本 遥

今回のインド人学生との交流の前に、英語科の中川先生からステレオタイプについての事前指導がありました。これは、女性だからこう、男性だからこう…というような考えで、実際にはそうでない場合の方が多いということでした。インドの方と聞くに厳格なイメージで、肉食主義で食事に厳しい制限がある、などのステレオタイプがありました。また、私は外国の方との密な交流は初めてで、どのように接すれば良いかも分かりませんでした。しかし、実際の交流会（トリプルレンジャー製作）では、皆大変フランクでよく話しかけてくれ、様々な会話も交わしました。歓送会（フェアウェル・パーティ）での食事私が思っていたほど厳しい制限はなく、日本の食事はおいしいと言って頂けました。今回の交流のおかげで、インドの方へのステレオタイプ、また外国の方との交流の壁が大きく取り払われたように感じます。



事前セミナー

物質工学専攻 2年 角 襟香

6月14日に米子高専で行われたインド学生との学校交流に参加しました。私たち専攻科生は、中川先生とバートン先生による英会話の事前指導を受けました。英語での自己紹介の指導では、この人の話をもっと聞きたいと思わせるような内容にすることや、表情にも気を使うと良いということ学びました。また、トリプルレンジャーというロボットのつくり方をインド学生に指導する練習では、日本語を直訳せずに伝えたいことだけを頭に思い浮かべ、簡単な単語だけで英語を話す練習も行いました。事前指導を受けたおかげで、本番ではインド学生と仲良くなることができ、トリプルレンジャーの製作もスムーズに行うことができました。今回の経験で英会話に対する抵抗がなくなり、今後もさらに外国の方と関わっていきたいと感じることができました。



ものづくり体験型学生交流

建築学専攻 2年 海道 真一

歓送会のなかで、出し物を披露した。日本の伝統的な遊びを実演を交えて紹介し、おもちゃをインドの皆さんにプレゼントしようという考えのもと、数日前から用意し、実演の練習に励んだ。当日のパフォーマンスは、前日に収録編集した数分間のイメージ映像を投影し、次いで説明と実演に移った。実演に入ると、子供たちやインドの学生までもがステージに上がり「僕もやりたい!」というように参加してくれたことで、興味を持ってもらえたことにほっとした。実演では、全員が大きなミスもなくうまく紹介を終えることができた。言葉だけではうまく伝えられない「楽しんでほしい」という思いは、遊びの中でおもちゃを通して少しは伝わったのではないだろうか。歓送会の終わりにはおもちゃを贈り、連絡先を交換していたが、その後、facebookやメールでの連絡があった。日常会話の英語は読みにくく、なかなか意味を理解することができないが、現実的な他言語に触れる機会としてとても良い刺激を受けている。



歓送会パフォーマンス

南ソウル大学の学生・教員を迎え一泊二日の学校交流

特任主事（国際交流等） 香川 律

6月28日（木）・29日（金）の両日、学生会を中心とした本科生、更に専攻科生・留学生を加えた約20名の本校学生が、「北海道をゆく 2012世界の環境を考える研修」のため来日した韓国・南ソウル大学校（忠清南道天安市）の学生たちと学校交流を行いました。初日は、琴浦町での活動を終え、夕方、本校に到着した一行を迎えての歓迎交流会、二日目午前中は、米子市クリーンセンターの施設見学後、弓ヶ浜海岸に場所を移し、研修の主目的である漂流ゴミ回収作業を通じた環日本海・海洋環境問題研修、更に、松林の再生を目指し本校が取り組んでいる「弓ヶ浜・白砂青松アダプトプログラム」の一環と位置づけた米子高専-南ソウル大学校交流記念植樹（“きらら松”）、午後からは学校に戻り、昼食交流会では皆で韓国料理に舌鼓を打った後、一般科目（国語科）松崎講師によるミニ講演、技術職員と本校学生の手助けによるものづくり体験型学生交流と続き、最後に、高専ロボコン地区大会優勝ロボットのデモンストレーションを見学して、二日間の充実した交流の一時を締めくくりました。別れ際、再会を約束し、二日目の宿である駅前ホテルに出発する一行を見送る本校学生たちの様子に、日本海を臨む弓ヶ浜辺に植えた“きらら松”同様、両国の若者たちの交流の苗木が大樹に育つようにと願うばかりでした。

学生会会長 M5 植田 健斗

私は学生会の活動として6月28日に韓国、南ソウル大学の学生と「風力発電キット ECO RIDER」の製作を行いました。このキットは、南ソウル大学の学生の方々が「海道をゆく2012世界の環境を考える研修」として、日本海海岸沿いを自転車で移動しながら海洋ゴミ回収活動を行われていたため、その活動とマッチしていると香川先生が選んでくださったものです。多くの南ソウル大学の学生に興味を持っていただき、互いにコミュニケーションをとりながら製作することができました。キットが完成するとみんなでハイタッチしているグループもあり、活動は大成功だったと思います。私はこのものづくり体験を通して、環境問題と国際交流について更に興味をもつことができました。これからも、米子高専と南ソウル大学の交流を続けてほしいと思います。



歓迎交流会

学生会副会長 A5 村山 雄介

6月末に南ソウル大学の学生との学校交流がありました。初日は一緒に夕食を食べて交流を深めました。交流が始まる前は、言葉も知らずどんな風に接したら良いだろうなど、たくさんの不安がありました。実際に始めると南ソウル大学の学生は日本語も上手く、話しかけてきてくれたので、それまでの不安はすぐに無くなりました。2日目はクリーンセンター見学、弓ヶ浜海岸の漂流ゴミ回収作業、交流記念植樹など色々な活動をしました。漂流ゴミ回収作業はこの研修の主目的で、暑い中海岸線をきれいにいき結構な量のゴミが集まりました。南ソウル大学の学生はこの活動を自転車で移動しながらずっと続けてきたと聞いていたのでとても大変だったのだろうと感じました。今回の交流で環境問題は国際的な問題だと改めて思い、こういったことから国際的な交流が生まれ、少しずつでも問題解決に繋がっていくというのはとても素晴らしいことだなと思いました。



交流記念植樹

学生会副会長 A5 吉田 千紘

6月28日、29日に「海道をゆく2012世界の環境を考える研修」として南ソウル大学の学生と交流を行いました。5月に訪韓した際にできた友達とも再会でき、とても嬉しかったです。28日の夕食会では今回初めて会った学生たちと同じテーブルになり、新しい友達もできました。日本語が苦手なメンバーでしたが、日本語でなくても、言いたいことは通じてしまうものです。また「Facebookしてる?」というこの一言が話の種になり、盛り上がることもできました。南ソウル大学の学生による弾き語りではギターがとても上手で感心するとともに歌詞の「海は人を隔てない」の部分が一番印象に残っています。国は違っても私たちの間には壁は無く、友人としてかけがえのない繋がりを今回の交流でつくるのが出来たのではないのでしょうか。



ものづくり体験型学生交流

● 平成24年度行事予定（後期） ●

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1月		1木	文化祭準備	1土		1火	元日	1金		1金	臨時休業
2火		2金	文化祭	2日		2水	冬季休業	2土		2土	
3水		3土	文化の日・文化祭	3月		3木		3日		3日	
4木		4日	文化祭片付け	4火		4金	4月		4月		
5金		5月		5水	後期中間試験	5土	5火		5火		
6土		6火	金曜授業	6木	後期中間試験	6日	6水		6水		
7日	ロボコン中国大会	7水		7金	後期中間試験	7月	7木		7木		
8月	体育の日	8木		8土		8火	8金		8金		
9火		9金		9日		9水	9土		9土		
10水	避難訓練(順延時)	10土	高専大会(冬季)	10月	後期中間試験	10木	学習到達度試験(3年のみ)	10日		10日	
11木		11日		11火	後期中間試験	11金		11月	建国記念の日	11月	
12金		12月		12水		12土		12火	12火		
13土		13火		13木		13日		13水	13水		
14日		14水		14金		14月	成人の日	14木	14木		
15月		15木		15土		15火		15金	15金		
16火		16金		16日		16水		16土	16土		
17水	特別行事	17土	第2回オープンキャンパス	17月		17木		17日	17日		
18木		18日		18火		18金		18月	18月		
19金		19月		19水	スポレク大会	19土		19火	19火		
20土		20火		20木		20日		20水	20水		
21日		21水		21金		21月		21木	21木		
22月		22木		22土		22火	推薦入試	22金	22金		
23火		23金	勤労感謝の日	23日	天皇誕生日	23水		23土	23土		
24水		24土		24月	振替休日	24木		24日	24日		
25木		25日		25火		25金		25月	25月		
26金		26月		26水	冬季休業	26土		26火	26火		
27土		27火	臨時休業	27木			27日		27水	27水	
28日		28水		28金		28月		28木	28木		
29月		29木		29土		29火		29金	29金		
30火		30金		30日		30水		30土	30土		
31水				31月		31木		31日	31日		

工作機械技術振興・奨励賞を受賞

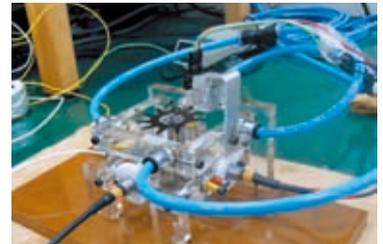
機械工学科 矢壁正樹

日本機械学会中国四国学生会第42回学生員卒業研究発表会講演前刷集に掲載した論文「超音波による多孔質焼結合油軸受の油膜厚さ測定(測定精度向上に対する実験的考察)」に対して、この度6月12日に公益財団法人工作機械技術振興財団より平成23年度(第33次)工作機械技術振興賞(奨励賞)を受賞することができました。この論文は生産システム工学専攻1年西林郁弥(現S2生)、同2年高田健太郎(H23年度修了生)の2名が機械工学科准教授矢壁正樹、同教授大塚茂の指導の基で書き上げたものです。受賞した工作機械技術振興賞は工作機械技術の進歩に大きく寄与することのできる研究に対して贈られる賞で、本年度は全国で177編の論文が審査対象となり、東京大学、金沢大学、福島高専などの論文7編が受賞しました。このうち、機械工学科教授山口頤司が指導する論文も同賞を受賞し、米子高専のダブル受賞となりました。受賞した論文の内容については割愛させていただきますが、この研究は2002年度よりスタートし、約10年をかけて実用化レベルまでにこぎ着けることができました。研究を始めた当初は実験装置も十分ではなく、なかなか進まない事もありましたが、様々な形でご支援をいただき、研究を進めることができました。ここに誌面をお借りして御礼を申し上げたいと思います。また、今後とも研究・教育に精進してまいりたいと思います。ありがとうございました。



生産システム工学専攻2年 西林 郁弥

先輩の高田健太郎君と一緒に書き上げた論文「超音波による多孔質焼結合油軸受の油膜厚さ測定(測定精度向上に対する実験的考察)」(日本機械学会中国四国学生会第42回学生員卒業研究発表会講演前刷集に掲載)に対して平成23年度(第33次)工作機械技術振興賞(奨励賞)を受賞する事ができました。私は専攻科に入学してからこの研究に取り組み、先輩の高田健太郎君と共に指導教員である矢壁先生、大塚先生に叱咤激励を受けながら研究をまとめ、論文を完成させることができましたが、まさかこのような賞がいただけるとは思ってもみませんでした。論文の内容は、従来不可能であった多孔質含油軸受内の油膜厚さ測定を超音波法を用いる事により可能とし、さらに温度補正を行うことにより測定精度の向上ができる事を示したものです。実験装置のほとんどが手作りで、常に微調整が必要な実験で苦勞しましたが、先生方の指導のおかげでまとめることができ、賞までいただくことができ感謝の念でいっぱいです。今後はさらに研究を進め、社会人となっても活かすことができるようさらに勉学・研究に励んでいく決意です。あと半年の専攻科生活になりますが、悔いの無いよう頑張ります。



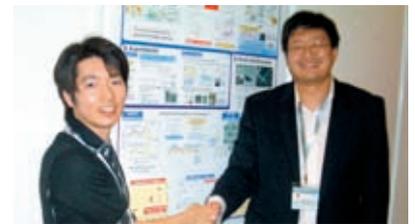
国際学会ICYRAMでPoster Awardを受賞

電気情報工学科 田中 博美

7月1日(日)～6日(金)シンガポールのBiopolisで開催された国際学会International Conference of Young Researchers on Advanced Materials 2012 (ICYRAM:先端材料分野における若手研究者の国際学会)において、研究内容を評価されPoster Awardを受賞しました。

発表テーマは“Growth of High Temperature Superconducting Single Crystal with High-Performance Controlling Nanosized Structural Defect (ナノサイズ構造歪制御による高機能高温超伝導単結晶の作製)”であり、高温超伝導体の実用化につながる重要な結果が得られたという内容でした。

このPoster Awardは、選考対象者約700名の中から選出された受賞でした(受賞者数:計20名)。なお、日本人による受賞は東北大と米子高専の2件のみでした。また、高専教員による受賞は初めてでした。今回の受賞には大変驚いているのと同時に良い励みにもなりました。今後は、この研究成果を高温超伝導体の応用研究に発展させていきたいと考えています。



編集後記

今年も中国地区高専体育大会などで好成績が続出し、学内は大いに沸きかえりました。学生たちの努力に賛辞を贈りたいと思います。

紙面へのご意見・ご感想を、メール(hikona@yonago-k.ac.jp)にてぜひお寄せください。

※記事において、学科名をアルファベットで表している箇所があります。

M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…一般科目、S…専攻科

例えば、「1M」は機械工学科1年生を表しています。

発行：米子高専広報委員会

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL: 0859-24-5023 FAX: 0859-24-5029 印刷：株式会社高下印刷
E-mail: hikona@yonago-k.ac.jp ホームページ：http://www.yonago-k.ac.jp/ ⇒メニューより「キャンパスライフ」